『東方』二九七号より

ついに品詞をつけた『現代漢語詞典』

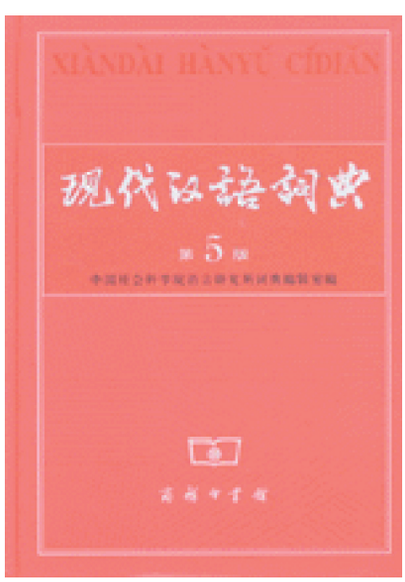
三宅 登之（東京外国語大学）

私は今年七月二一日に北京で開催された第一回世界漢語大会に出席したが、そこで『現代漢語詞典第五版』に出会うとは思いもよらなかった。分科会の会場に行くと入り口に商務印書館の関係者が立っていて、大会参加代表一人一人に『現代漢語詞典第五版』を配布していたのである。私もそこで商務印書館の贈呈印の押されたこの第五版をいただくことができた。その後北京滞在中に、北京市内の主要な大型書店はほぼ回って見たが、当時私が見た範囲ではまだ店頭には出ていなかった。北京ではその後七月二六日に発行された。

『現代漢語詞典』は一九七八年に第一版が正式に発行され、一九八三年に第二版、一九九六年には『修訂本』が出たがこれが奥付を見ると第三版である。次に二〇〇二年に出た『二〇〇二年増補本』は奥付ではあくまでも第三版だが、その後これが第四版という位置づけになったようである。第五版に『二〇〇二年増補本』の「説明」が再録されているが、タイトルのみ「二〇〇二年第四版説明」と書き換えられていることからも見て取れる（以下では『二〇〇二年増補本』を第四版と記す）。前回の改訂からまだ三年しかたっておらず、唐突に発行された印象を受けたこの第五版であるが、実は第五版の編集作業は一九九九年から既に進行中なのであった①。

トップページにもどる

中国社会科学院語言研究所詞典編輯室編
『現代漢語詞典（第五版）』
二〇〇五年・商務印書館社・四、二八四円



さてこの赤い表紙が目新しい第五版であるが、正文が第四版の一七三六頁から一八三五頁へと増え、本の厚みが増した。部首目録が表紙見返しに配置され、裏表紙見返しには従来の元素周期表に代わってカラーの中国地図が載っている。本を開くと中のデザインも若干変更され、見出し語のピンインが太くくっきりとしたゴシック体になり、語釈と用例のフォントも区別されて見やすくなった。

改訂の内容としては、見出し語の整理、中でも新語の追加が目玉となる中心項目である。第五版は編集作業が一九九九年から始まったことからわかるように、その改訂作業は第三版を元本としている。その第三版に比べると、新たに六〇〇〇語あまりが加えられている。第五版の総収録語数が約六五〇〇〇語であるから、その占める割合の大きさがよくわかる。ただ厳密に言うと、改訂作業の途中二〇〇二年に発行された第四版で一二〇〇あまりの新語が加えら

れていたので、その分を差し引き、更に新しい意味項目が追加された語も除くと、第五版で第四版から新たに見出し語として追加された語は実際にはおよそ二〇〇〇語である。第四版のように巻末に別に収録されていると、辞書を二度引かなければならず、結局新語のほうは引かない（のは私くらいかもしれないので断言はできないが）ので、今回正文の中に加わったのはありがたい。加わった新語のごく一例を見てみると、「森林浴」（森林浴）「乾啤」（ドライビール）「書虫」（本の虫）「垃圾郵件」（迷惑メール）「非典」（SARS）「禽流感」（鳥インフルエンザ）「充値」（プリペイドカード等にチャージする）「便利店」（コンビニ）「電郵」（Eメール）「伊妹児」（Eメール）「可視電話」（テレビ電話）「彩顕」（カラーディスプレイ）などがある。また、新しい意味項目が追加されている例として、例えば「蒸発」には従来は液体が気化する意味しかなかったが、これに液体に限らず何か物が突然消失するという意味が追加されている。外来語としてもはやおなじみの「酷」（クールな）なども加わった。

元本の第三版から削除された語・項目もおよそ二〇〇〇にのぼる。「幫口」（地縁団体）「冬学」（農民が冬の農閑期に読み書きを習う教室）等の現在はあまり使われなくなった古い語や、「白相人」（ごろつき）などの方言色の強すぎる語が削除された。「愛美的」（アマチュア）「梵唖鈴」（バイオリン）などの外来語の音訳語も姿を消した。

加わったり削除されたりしたのは新語や古語ばかりではない。専門用語関係では、「扁率」の追加によって新たにその図も追加された。「円心角」の追加により、「円周角」の図が（そこに「円心角」も含めることにより）変更された。第四版にはなかった「空手」「奉若神明」が第五版で見出し語として加わっているが、これらは実は一九八九年に出た『現代漢語詞典補編』にあった語句が復活したものである。また、「喫不上」「喫館子」などが姿を消しているが、これらは親字「喫」から理解できるということであろうか。

見出し語関連としてはその他に異形語の整理と規範形の提示も見逃せない（凡例の2・2）。「棒高跳び」は「撐杆跳高」と「撐竿跳高」の両方が見出し語に挙がったが、後者が奨励される形であることがわかる。また、第三版で一度消滅した口語の符号〈口〉が復活している。

語釈や用例も多くが検討を加えられ修正されているようである。「酒吧」（バー）の語釈が第四版では「西餐館或西式旅館中売酒的地方。也説酒吧間」とあったが、第五版では「～的地方」の後に「也有専門開設的」が加わったのはおもしろい。また、「牙」「歯」「牙歯」の語釈を比較すると、これら三者の相対関係が変化しており、そのためか元々「歯」の箇所にあった歯の図まで「牙」の箇所に移動している。

さて、以上の他に第五版は新たに品詞を表示するという、『現代漢語詞典』では初の最大の改訂が加えられた。以前拙稿②で、現代漢語詞典には品詞表示がないことを述べ、品詞表示のある他の辞書だけを使って調査を行なったばかりだったため、第五版を初めて開いたときには衝撃を受けた。中国語ではまず親文字の箇所で語と形態素を区分し、その後に語に品詞を付していくが、この作業には常に困難がつきまとう。現代漢語詞典も初版の発行以来、品詞表示を目指したもののかなわなかったと、初版の主編の呂叔湘氏が他の辞書③の序文で述べている。その後長年の検討の成果は第五版発行以前に、『現代漢語小詞典』のほうで一九九九年修訂本から試験的に公開されてきていた。

トップページにもどる

第四版でも、虚詞と、実詞のうち代詞・数詞・量詞には品詞が表示されてはいたが、第五版では語を名詞・動詞・形容詞・数詞・量詞・代詞・副詞・介詞・接続詞・助詞・感嘆詞・擬声詞の一二に分類し、品詞のマークを付した（形態素には品詞表示なし）。更に、名詞の中で時間詞・方位詞、動詞の中で助動詞・趨向動詞（方向動詞）、形容詞の中で属性詞（区別詞）・状態詞という下位類を、典型的で常用されるものについて語釈の頭の位置で明記した。また代詞は第四版同様、人称代詞・指示代詞・疑問代詞の下位分類が記されている。

この品詞分類については、初版主編の呂叔湘氏が同じく主編している『現代漢語八百詞』と比べても、「長期」が名詞／形容詞（第五版／『八百詞』の品詞、以下同じ）、「難以」が動詞／副詞、「任何」が代詞／形容詞のように食い違いが見られるが、ここでこのような個別の例を多く検討する余裕はない。以下では気づいた点についてごくいくつか触れてみたい。

第四版は基本的には品詞表示がなかったので、第五版でどのような品詞の変更があったかは一見判別しにくいが、それが意味項目の立項に変更をもたらしているものがある。郭鋭④の指摘した語をいくつか見てみると、例えば「結果」は第四版では意味項目は一つしかなかったが、第五版では名詞の他に❷として「用在下半句、表示在某種条件或情況下産生某種結局」との語釈の接続詞の項目が追加された。「紀念」は第四版では❶の動詞としての項目の他に、❷に「用来表示紀念的（物品）」という属性詞としての項目があったが、第五版ではこの❷の項目が削除されており、動詞に統一されている。一方郭鋭は「放松」には動詞以外にも形容詞の用法があるとし用例も挙げたが、第五版は変更なく動詞のみである。

トップページにもどる

他にも「干擾」の❷の項目の語釈を読むと、それが明らかに名詞から動詞に変更されているし、「奉献」は第四版❷の名詞としての項目が削除された。逆に「企図」「設計」には旧来の動詞に❷として名詞項目が追加されている。このように動詞と名詞の区分についても様々な修正が加えられている。

一二に分けた品詞分類の下位類であるが、形容詞の下位類の属性詞の定義（一二六七頁）で、属性詞は一般に連体修飾語にしかなれないとした後で、さらに連用修飾語にもなれるものが少しあるとして「自動」「定期」の例があがっているが、連用修飾語になれるのはあくまでも属性詞の特徴ではないので、これらは属性詞と副詞の兼類である点を明確にすべきだと思われる。

さて、最後に形態素と語の区別について注意すべき点がある。現代中国語の書面語は様々なレベルの表現の混合体で、文言や、特定ジャンルの専門用語が混在しており、語として単独で使えるかどうかの判断が困難なものがある。例えば「国」「校」などは話し言葉では単独で使えないが、文言レベルでは語として独立して用いることが可能である。「鰐」「肩」は日常の話し言葉では単用しないが、生物学や医学の用語としては用いる。実際例えば「校」を形態素としている辞書⑤がある一方で、第五版はこれらをすべて名詞としており、我々外国人学習者は第五版を参考にして作文する際などには、この点は頭に入れておく必要がある。

中国語学で議論の尽きない品詞分類の問題だが、このたび『現代漢語詞典』によって示された品詞が、今後の一つの基準として大きな影響力を持つことになるであろう。

【注】

①『《現代漢語詞典》五十年』（中国社会科学院語言研究所詞典編輯室編、商務印書館、二〇〇四年）

②「動詞と名詞の区分をめぐって――品詞表示の比較のモデルケースとして」（山崎直樹・遠藤雅裕編『辞書のチカラ――中国語紙辞書電子辞書の現在』好文出版、二〇〇五年）。

③『現代漢語学習詞典』（孫全洲主編、上海外語教育出版社、一九九五年）。

④「語文詞典的詞性標注問題」（郭鋭、『中国語文』第二期、一九九九年）。

⑤『現代漢語用法詞典』（閔龍華主編、江蘇少年児童出版社、一九九四年）。

トップページにもどる